

3月3日、悲しいニュースが飛び込んできた。77歳、現役最年長レーサーの高塚清一さんが1日に死去していたと日本モーターボート競走会が発表した。高塚さんは今年2月に「業界初となる喜寿を迎えた現役最高齢選手として、自身の持つ最年長勝利記録を更新し続けるなど、長きにわたりボートレース業界に貢献した」として優秀選手表彰の特別賞を受賞したばかり。亡くなる2日前（2月27日）まで多摩川に出走しており、文字通り『生涯現役』を貫いたレジェンドレーサーだった。心よりご冥福をお祈りします。



3月4日から16日まで浜名湖に設置された献花台。台に収まりきれないほどの花が手向けられた。

高塚清一（たかつか・せいいち）

1947年3月7日生まれ。静岡県出身。1965年11月、浜名湖で20期生としてデビュー。その節で初1着を挙げ、20代前半でGIやSGにも出場。2000年頃まで30年以上、A級レーサーとして第一線で活躍した。晩年は体重52kg前後で出走していたが、全盛時は60kg以上あり重量級としてならした。スピードを磨き、60歳を過ぎてもアウトから豪快なまくりを決めるのがレーススタイル。15年に最年長レーサーとなり、以降、さまざまな最年長記録を樹立した。通算成績は出走回数1万3461回、2398勝、優出245回で優勝は47回。獲得賞金は9億2638万5247円。



本誌インタビューでもお世話になりました

06年9月号「今日は飲もまい」にて、本誌ご意見番の松本進さんとグループの後輩にあたる当時新鋭の重野哲之と登場。この翌年に60歳を迎えるにあたってこんな話をしていた。「僕らが若い頃にも50代の選手が何人かいましたけど、おじいさんという感じでした。今の自分は当時のあの人たちより年を取っているわけですから、自分でも全く信じられないですよ」。この後さらに19年、選手を続けた。

13年5月号の同企画。こちらもグループの後輩・加藤翔と登場。常滑で優勝した直後で「優勝はノロウイルスにかかって痩せたからです」と笑っていた。

高塚清一 年表

1965年11月	浜名湖にてデビュー。同節初1着をマーク
1967年11月	桐生にて初優出、初優勝を達成（通算2年1か月目）
1968年7月	勝率5.89でA級初昇格（当時はA・B・C級の3級制）
1969年8月	常滑「東海地区選手権」にてGI初出場（通算3年10か月目）
1970年3月	住之江「総理大臣杯（ボートレースクラシック）」にてSG初出場（通算4年5か月目）
1986年12月	平和島にて通算1,000勝達成
2007年8月	浜名湖にて通算2,000勝達成
2013年1月	常滑にて通算47回目の優勝。65歳10か月での優勝は当時の最年長優勝記録を大幅に更新するものだった
2015年5月	加藤峻二さんが引退し、現役のボート界最年長レーサーに（当時68歳）
2020年7月	73歳3か月で現役最年長出走記録を更新
2023年5月	浜名湖にて優出し、最年長優出記録を更新。76歳の誕生日に優勝戦を戦った（結果は4着）
2025年2月	優秀選手表彰にて特別賞を受賞
2025年3月	77歳で死去

生涯現役

高塚清一選手

ありがとう…



04年名人戦(住之江)



13年名人戦(びわこ)



14年マスターズチャンピオン(唐津)



20年江戸川にて



22年浜名湖にて



24年戸田にて



22年江戸川にて



23年江戸川にて